低身長について

■低身長とは、どのような状態（病気）ですか？
同じ学年のこどもたちと比べて身長が著しく低いか、成長の速度が著しく遅い状態をいいます。

■どのような原因がありますか？
低身長の原因はさまざまです。
１．　成長ホルモン分泌不全性低身長
２．　甲状腺機能低下症、思春期早発症・思春期遅発症
３．　染色体異常を伴う症候群（ターナー症候群など）
４．　骨系統疾患（軟骨異栄養症など）
５．　出生時に低身長のまま追いつき現症がない状態（低出生体重児性低身長）
６．　腎臓の病気など
７．　脳下垂体の腫瘍など
しかし、低身長の多く場合、上記の異常のいずれもない（多くが家族性）低身長です。

■検査にはどんなものがありますか？
１．成長曲線の作成
検査の前に最も大切なことは、成長の推移（成長曲線）をグラフにすることです。成長曲線の作成には、(1) 母子手帳、(2) 幼稚園・小学校の身長・体重測定の記録が重要ですので、受診時に持参していただけると大変参考になります。この曲線をもとに、お子さんの成長障害の開始時期や成長速度の低下を判断して、原因の追究に役立てます。
２．血液検査
成長に関連するホルモン、ミネラルなどについて精査します。
３．骨のＸ線写真
手の骨のＸ線写真を撮影して、骨の年齢を調べます。手を広げた長さと身長のバランスが著しく違う場合には、その他の骨もＸ線写真も撮影します。
４．成長ホルモン分泌負荷試験
上記の１，２，３の基本的な検査ののちに、さらに詳しく調べる必要がある場合に、成長ホルモン分泌負荷試験を行います。アルギニン、インスリンなどの刺激薬を用いて、脳下垂体からの成長ホルモン分泌をうながし、２時間にわたって血液中の成長ホルモンの濃度を調べます。痛みは、血管に留置する管を入れる最初の１回のみです。
５．脳下垂体の形の異常がないかをMRI検査で調べます。

■治療はどんなものですか？
成長ホルモンの分泌不足と診断された場合には、成長ホルモンの補充療法をします。

■最後に
低身長と心配されるお子さんのほとんどは、ご両親やご家族も小柄なケースがほとんどで、体質的なのもので心配のないことが多いです。しかし、なかには、上に述べましたいくつかの原因が見つかることがあります。このような場合には適切な検査と治療を受ければ、身長を伸ばすことができます。
まずは、ご自宅でお子さんの成長曲線を作成することをお勧めします。簡単なものは母子手帳にもついていますが、当院では標準身長曲線グラフシートを無料でお配りしています。-2.0 SD 以下で標準範囲を下回っている場合や、ある時点から身長の伸びが鈍くなっている場合には、お気軽にご相談ください。